

Weekly report

MINKABU
THE INFONOID

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都千代田区神田神保町3-29-1

今週の注目材料 = ブレグジット合意なるか

2019年10月14日

10月31日に英国のEU離脱期限が迫る中、今週は大きな節目となる離脱前最後のEU首脳会合が10月17日、18日に予定されています。

焦点となるアイルランドと英領北アイルランドの国境のハードボーダー（物理的障壁）を回避するための方策について、英国とEUの主張は分かれており、協議は行き詰まりを見せています。

昨年、当時のメイ英首相とEU側が合意したバックストップ案については、与党内からの反発や、閣外協力している北アイルランドの地域政党DUPの反対もあって議会を通らず、ブレグジット交渉が混とんする中で、メイ首相が辞任。

合意できなければ10月31日で合意なき離脱も辞さないとの姿勢の下で、新首相となったジョンソン首相は、2日にバックストップに代わる代替案をEUの行政機関である欧州委員会に提出しました。

代替案ではバックストップを削除し、北アイルランドは2020年末の移行期間終了とともに英国本島と同様にEUの関税同盟から離脱するが、農産品と工業製品分野でEUの単一市場ルールに沿った規制に4年間留まることが提案され、その後は北アイルランド自治政府及び議会が、同様の枠組みの延長を承認するかどうかを決めるという方策が示されました。

DUPはこの代替案に賛成する姿勢を示しており、バックストップを含む案よりは英国議会がまとまる可能性が出ています。

しかし、EU側はこの提案に前向きではあるが納得しないと難色を示しています。ユンケル欧州委員長はなお問題点が残ると疑問を呈しました。バックストップ条項におけるキーマンであるアイルランドのバラッカー首相は、ジョンソン氏の最終提案の下で必要となるアイルランド国境から離れた場所での限定的な税関検査について、北アイルランドの和平を脅かすものとして主張しています。とはいえ、EU側が主張するバックストップについては、メイ首相時代に英議会で3度も否決されており、同条項を含む案での英国の合意形成はほぼ不可能に見えます。メイ首相退陣後の保守党党首選をみると、当初離脱否定派で、その後は合意なき離脱を避けるという穏健派のハント候補などもバックストップについては期限付きでも反対姿勢を示すなど、与党保守党にとってバックストップを受け入れることはかなり厳しいハードルのようです。

こうした状況から、今回のEU首脳会合についても、厳しい見方が広がっていましたが、ここにきて状況が変わってきました。

10日に英国北西部で行われた英国のジョンソン首相とアイルランドのバラッカー首相の首脳会談で、前向きな姿勢が示されたのです。

2時間半という長時間に及んだ会談後、両社は共同声明を発表。詳細にわたる建設的な話し合いだったと評価し、合意に向けた道筋を見出したと示しました。

バラッカー首相は月末までの合意は可能だと確信していると、相当前向きな発言をしており、離脱交渉担当者らにブリュッセルでの協議再開を促しました。メルケル独首相などは、合意に向けてかなり悲観的な発言をこれまで行っていますが、基本的にアイルランドとの国境問題についてはアイルランドの意向に沿うというのがEUのコンセンサス。会談の具体的な内容については伝わっていませんが、キーを握るアイルランド側の姿勢の変化を受けて、EU側のバルエ工主席交渉官と英国側のパークレイEU離脱担当相などが双方の課題を埋める形で妥協点を見出す可能性は十分にあり、EU首脳会合でブレグジット合意が承認される可能性がここにきて出てきています。

EU首脳会合でEU離脱合意が成立するとポンドにとっては大きな買い材料。ユーロも対

ドルや対円では買いが入ると見られます。

一方で、当初予想されていた通り、英国とEUとの意見の対立が見られ、合意に至らないと相場は混乱しそう。

この場合、先日英議会在が成立させたEU離脱延期法の下で、ジョンソン首相は3カ月の離脱延期をEUに求めることが義務付けられています（正確には19日までにEUと合意するか、英議会在が合意なき離脱を認めるかのどちらかでない限りですが、EU首脳会合で否決された時点で、可能性はまずないです）。

もっともジョンソン首相は、離脱延期はしないと明言しており、裁判所の命令に従うかどうかを含め波乱含み。政治的な混乱は通貨の売り材料となることに加え、先行きの不透明感がかなり激しくなることもあり、ボンド売りの材料となりそうです。

山岡和雅 | minkabu PRESS編集部

1992年チェースマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後GCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。（社）日本証券アナリスト協会検定会員 主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。